



「季節感を
小菊を配した
中央に黄色の
などの下草の
カラーリーフ
ルニチソウや
ツ

受賞作の題名は「十三夜」。

「友人が新聞で見て電話をくれたけれど、受賞を知らなかったので半信半疑。その後主催者から連絡を受けたのですが、実感がわきませんでした。展示会場で実際に賞の付いた作品を見て、ほかの皆さんの方が立派な物ばかりで、賞をいただけたことにびっくりしています」

受賞を聞いても半信半疑で



ガーデニングコンテスト知事賞
佐々木 佐千江さん(54)
山王町二丁目

大事にしたかったんです。満月になる前の月に雲が掛かったような景色をイメージして、出品時に花が咲ききらないように注意しました。制作にひと月かかりましたが、その間に中央の花を二回取り替えたんですよ」

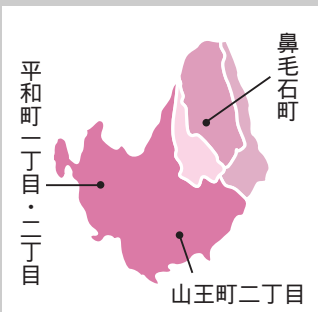
園芸を初めて十年ほどだが、本格的に取り組んだのは四、五年前から。二年前からは教室にも通っている。

「土をいじっていると心が和みますね。植物は愛情を注げばそれに応えてくれるし、その一方で、放っておいても花を咲かせて存在感を示す力強さもあるんです。あまり薬品を使わぬように生ゴミでたい肥を作り、水やりにも風呂の残り湯を使うなど環境に配慮しながら、自然を楽しんでいきたいと思っています」

陶芸や絵手紙にも取り組み、心豊かな毎日を過ごしている。

ふれあい広場

情報をお寄せください。市役所市政発信課 890-6642へ。



歴史伝える 山車を祭り

本庁管内

平和町一丁目・二丁目合同の雷電神社秋季大祭で、十月一日・二日に山車の町内巡行が行われました。市内に伝わる山車も多くが戦禍で焼けてしまい、明治二十五年に市制施行したときの旧市街地域で残るのはここだけ。見事な六角形の高欄は、かつて三段の高さでしたが、戦後、電線に配慮して二段になり、その



上に弁慶人形がせり出します。山車の上では、小学四年生から六年生が地域の人たちに教わったおはやしを奏でます。子どもから大人まで多くが参加し、楽しく町内を巡りました。

まちのニュース

3団に分かれ 体育祭盛大に

宮城地区



十月二日、宮城地区市民体育祭が鼻毛石町の宮城総合運動場で開催されました。毎年この時期に行われ今回で四十回目。住民が赤城・榛名・妙義の三団に分かれ、優勝を目指しました。

リレーなどの得点種目では、各団選手が声援を受けながら一生懸命に。玉入れ競技は小学生とお年寄りが一緒になって、玉をかごへ投げ入れました。

ほかに、パン食い競走や景品が当たる風船割りなどの自由参加種目もあり、好天に恵まれた秋の一日、参加者はさわやかに汗を流しました。